

MACF 礼拝説教要旨

2025 年 8 月 10 日

「アベルとカイン」

はじめに

創世記 3 章

20 アダムは女をエバ(命)と名付けた。彼女がすべて命あるものの母となったからである。21 主なる神は、アダムと女に皮の衣を作って着せられた。

* *

土の塵から形作られたアダムと、いのちあるものの母となる女をエバ(いのち)と名付けられた神様は、罪ある二人のいのちをすぐに取り去ることをせずむしろ、神様の造られた樂園から追い出しました。そして、神様がすべてを用意してくださった収穫の果実などをケアするのではなく、自分たちで汗を流して耕作しその実りを得るような形で生きるようになさいました。

その前の小さなエピソードに今朝は注目したいと思います。

21 主なる神は、アダムと女に皮の衣を作って着せられた。

という言葉です。

人間は神様の前に罪を犯した時、自分たちの裸を隠すようにいちじくの葉っぱで腰を覆うものを作るのが精一杯でした。

7 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。

神様は、ふたりのために動物をほふり、その皮で衣を作りました。

これはとても重大な出来事です。

それは人間が生きていくために、他の動物や植物の犠牲が必要だということが語られているからです。

1) 神が衣を作って着せてくれた。

ここには神様の深い愛があります。人の命が守られるように、人が

神様に守られていることを知ることを願う神の心がここに 있습니다。

罪ある人間を放置して、自分の弱さ、はかなさを知るようにすることも可能でした。

しかし、神様は人間のいのちを守ろうとし、そのために、動物を屠って人間のための犠牲とさせたのです。

2) 人間の安全のための犠牲となる動物

これは言い換えれば、人は生きていくためには誰かのいのちを奪うことなしに、安全や安心を得ることができない状況にあるということです。日本文化の中に根差した「いただきます」「ごちそうさま」は「イエス様感謝します」という言葉の次に大事なものかもしれません。

* * *

本編：

創世記 4 章

カインとアベル

- 1 さて、アダムは妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「わたしは主によって男子を得た」と言った。
- 2 彼女はまたその弟アベルを産んだ。
アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。
- 3 時を経て、カインは土の実りを主のもとに献げ物として持って来た。
- 4 アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、
- 5 カインとその献げ物には目を留められなかった。カインは激しく怒って顔を伏せた。
- 6 主はカインに言われた。
「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。」
- 7 もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。
正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない。」
- 8 カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。
- 9 主はカインに言われた。
「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」
カインは答えた。
「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」
- 10 主は言われた。
「何ということをしたのか。お前の弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる。」

11 今、お前は呪われる者となった。お前が流した弟の血を、口を開けて飲み込んだ土よりもなお、呪われる。

12 土を耕しても、土はもはやお前のために作物を産み出すことはない。
お前は地上をさまよい、さすらう者となる。」

13 カインは主に言った。

「わたしの罪は重すぎて負いきれません。

14 今日、あなたがわたしをこの土地から追放なさり、わたしが御顔から隠されて、
地上をさまよい、さすらう者となってしまうえば、わたしに会う者はだれであれ、わたしを殺す
でしょう。」

15 主はカインに言われた。

「いや、それゆえカインを殺す者は、だれであれ七倍の復讐を受けるであろう。」

主はカインに出会う者がだれも彼を撃つことのないように、カインにしるしを付けられた。

16 カインは主の前を去り、エデンの東、ノド(さすらい)の地に住んだ。

* * * * *

有名なアベルとカインの物語です。兄のカインは「私は得た」という意味の名前を持ち、実力を誇示することを得意としていた

ような印象があります。一方、アベルは「息」という意味の名前で、存在感の弱い、すべて神様に支えられなければ生きていけないようなイメージを持っています。

そして、彼らはそれぞれ別の仕事にあたっています。

「アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。」とあります。

この二人の間に事件が起こります。しかも、神様との関わりにおける事件と言えるできごとです。

こう書かれています。

4 アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、

5 カインとその献げ物には目を留められなかった。カインは激しく怒って顔を伏せた。

そもそも、神様が献げ物を目に留めたか、留めなかったか、どうしてわかったのでしょうか。

ひとつには、アベルの羊はたくさん子を産み、たくさんの毛とたくさんのミルクと肉とを供給することになった。

一方、カインの畑は不作で、あまり作物が取れなかったということからの比較で、神が捧げ物を喜ばれたか

そうでなかったかを理解しようとしたのかもしれませんが。いずれにしても、そこには一見、カインからみたら、

不平等と思われる出来事があったことは事実です。カインは、神様が自分の努力を認めてくれなかったことにイライラしていたのかもしれませんが。

また、自分の思い通りに物事が進まないことについても憤りを感じていたのかもしれませんが。「自分にはなんでも得ることができるはずだ」とその名前からも自分に言い聞かせていたのかもしれませんが。

しかし、それができませんでした。

一方、カインの目からは、すべて神様任せでなければ物事がうまくいかない「遊牧」「牧畜」に身をおいているアベルはそれほど

苦勞しているようにも見えなかったし、能力もそれほどあるとは思えなかったのです。

そのアベルが神様に評価され、自分が無視されたことは、カインにとっては我慢できないことだったのでしょう。

学者たちは、この出来事を遊牧民と農耕民族の間の争いと説明していることが多いようです。

それは牧畜においては「牛が土から生えた草を食べて乳を出す」といったプロセスが人の力の及ばない領域であり、

まさに“神任せ・自然任せ”であるのに、農耕民は自分の労力と汗と努力を誇る傾向があるといわれているからです。

つまり、カインの背景には自分の努力への過信があったのかもしれませんが。だから、何事も神様任せのアベルのことが

許せなかったのかもしれませんが。

さらに言えば、無能に思えたアベルは心深く知っていたのです。

「神の前に謙虚であることが牧畜に携わる人間の美德である」ということを。

カインには「謙虚」という姿勢はありませんでした。捧げ物に対しても謙虚さはありませんでした。

おそらく自己顕示だったでしょう。だから、怒ったのです。無視されることが赦せなかったのです。

ここで最大の問題は、その際の身の処し方です。

神様はそのことをご存知でカインの警告しています。

5 カインとその献げ物には目を留められなかった。カインは激しく怒って顔を伏せた。

6 主はカインに言われた。

「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。

7 もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。

正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない。」

しかし、彼はそれができませんでした。弟を呼び出して、殺してしまったのです。

ここに深刻な罪の連鎖を見るのです。

カインの親は蛇を支配することができず、その誘惑に負けて木の実を食べ、ある意味で失墜しました。

そして、息子は、怒りを支配することができず、殺人を犯してしまうことになりました。

しかも、ここでもカインは弟殺しを否定し、素直に神様に詫びることをしていません。

むしろ、開き直っています。

8 カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。

9 主はカインに言われた。

「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」

カインは答えた。

「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」

しかし、神様は厳粛な事実を告げるのです。

10 主は言われた。

「何ということをしたのか。お前の弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる。

11 今、お前は呪われる者となった。お前が流した弟の血を、口を開けて飲み込んだ土よりもなお、呪われる。

12 土を耕しても、土はもはやお前のために作物を産み出すことはない。

お前は地上をさまよい、さすらう者となる。」

13 カインは主に言った。

「わたしの罪は重すぎて負いきれません。

14 今日、あなたがわたしをこの土地から追放なさり、わたしが御顔から隠されて、地上をさまよい、さすらう者となってしまうと、わたしに出会う者はだれであれ、わたしを殺すでしょう。」

ここに至ってカインは泣き言を言い出します。

しかし、これは実に大人気ない発言です。

聖書は怒りについて、数多く警告を発しています。

* *

[エフェソの信徒への手紙 4:26](#) 怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。

[ヤコブの手紙 1:19](#)

わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。

[ヤコブの手紙 1:20](#)

人の怒りは神の義を実現しないからです。

[エフェソの信徒への手紙 4:31](#)

無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。

[エフェソの信徒への手紙 4:32](#)

互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

[箴言 19:11](#)

成功する人は忍耐する人。背きを赦すことは人に輝きをそえる。

[マタイによる福音書 5:22](#)

しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。

[詩編 37:8](#)

怒りを解き、憤りを捨てよ。自分も悪事を謀ろうと、いら立ってはならない。

[箴言 29:11](#)

愚か者は自分の感情をさらけ出す。知恵ある人はそれを制し静める。

[箴言 16:32](#)

忍耐は力の強さにまさる。自制の力は町を占領するにまさる。

[箴言 15:18](#)

激しやすい人はいさかいを引き起こし 忍耐深い人は争いを鎮める。

[ローマの信徒への手紙 12:19](#)

愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。「『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。

[コロサイの信徒への手紙 3:8](#)

今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。

特に日本においては 8 月は「平和月間」です。
平和をつくり出すために、私たち自身が「怒り」に飲み込まれないように、むしろ、その心自体を
神様に知っていただき、十字架の苦難の中で処理されたことを心に止めることができますように。

* * *

Youtube での礼拝説教はこちらです。

<https://youtu.be/067INg5Mcqg>